

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1173800275
法人名	NPO法人ひばりの里ネットワーク
事業所名	グループホーム加須ひばりの里
所在地	〒347-0063 埼玉県加須市大字久下字高畑1625-1 (電話) 0480-67-0065

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月22日

【情報提供票より】(平成20年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 1人, 非常勤 13人, 常勤換算 5.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,900 ~ 54,900円	その他の経費(月額)	30,000円 + 実費	
敷金	有 (161,700 ~ 164,700円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,100円				

(4) 利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中田病院、篠原医院、神澤歯科医院、はなさき皮膚科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑静な住宅街にありながら周囲には畑があり、和風で採光も良好な平屋建てで家庭的な造りである。ホーム内は、理事長の豊富な介護経験から利用者の安全と快適な生活を主眼に、認知症ケアにおける工夫が随所に取り入れられ吟味されている。併設で練焼きのデイサービス、訪問介護事業所との交流もあり「通って、泊まって、住むこともできる」という、身体機能が低下したり、ターミナルに移行しても対応できるトータルな拠点作りを実現している。また、利用者は近隣への買い物や散歩、ホーム前の畑では野菜や花作りを楽しみ、潤いを感じられる。地域の方々とも触れ合える大変恵まれた環境で、地主や町内会の理解と協力によるイベントには、家族も加わり利用者は楽しく共に支えあえる行き届いたケアを受け快適に過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で指摘された点について、法人代表と管理者および職員で話し合い、活発な意見が出された中で、意見箱の取り入れ、危険物の保管場所、保管方法、記録を個別にファイルすることや、職員のストレス対策として個人面談をするなどの改善点があげられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人代表や管理者は、職員に対して外部評価の意義を説明し、自己評価項目について職員を交え意見を出し合い、改善点を検討しながら評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3~4ヶ月に1回開催され、メンバーは老人会長、町内会長、家族会会長、地域包括支援センター職員で構成されている。参加メンバーからの運営改善に対する積極的な提案もあり、町内会長が町内会館の玄関前スロープやトイレの改修をしてくれたりした。老人会の折り紙ボランティアや、防災訓練への周囲の協力および体制も、この会議の意見から作りあげられている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の請求書の通信欄を利用して日々の様子を伝えたり、家族の訪問時に様子や体調、往診の報告などをし、時には電話で連絡し様子を伝えている。居室にはメッセージボードがあり、家族とスタッフの連絡のやり取りもできるようになっていて活用されている。また、家族会総会が行われ、家族は意見を出せるようになっていく。今回の評価の家族アンケートでは、職員に言えない部分も是非記入するように事前に家族に説明をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会は、ホームで行う野菜等の収穫祭やクリスマス会、消防訓練のお知らせを回覧板で回し、地域の方々も参加できるように協力してくれている。老人会長は運営推進会議のメンバーでもあり協力してくれており、ボランティアも気軽に参加できるように呼びかけている。また、中学生の職場体験の受け入れを行ったり、クリスマス会には子供会からの参加の計画もあるなど、地域密着型グループホームとして着実に成果を上げている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の作成においては、地域の意見をどのように取り入れるかに着目し、地域関係者(社協、介護施設、市の介護保険課、民政委員)や家族、利用者の声をアンケートの形で聞き、作り上げている。また、スタッフの意見を盛り込み16項目にまとめた物を契約時にも説明している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のスタッフ会議には、理事長や管理者も参加し、持ち寄った利用者の困難事例や問題点について、理念に基づいた解決へと導けるように助言がされたり、職員からの意見も活発に出して解決に向けて実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会との関わりは深く、ホームで行う野菜の収穫祭やクリスマス会、防災訓練のお知らせなどは回覧板で回し地域の方々も気軽に参加できるようにしている。また、中学生の職場体験の受け入れや子供会の行事参加もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の際に挙げられた改善項目に対し、スタッフ会議では活発な意見交換がなされ、記録の整理方法や保管方法、意見箱の設置、危険物の保管方法などについての改善に取り組んだ。今回の自己評価にもスタッフも参加し、すでに改善したいことにも気づく場面があった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3~4ヶ月に1回、町内会長、家族会会長、包括支援センター職員の参加で行われており、参加メンバーからは運営改善のための積極的な提案もあり実現されている。また、防災訓練への周囲の協力や体制を作りあげるなど、会議での意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当法人は市内では初めてのグループホームを造ったため、法人側から市へ働きかける形でスタートしている。現在も市担当者とは地域包括支援センターにおいて様々な情報交換をしており、認知症に対するケアの方針や法人全体の理念が伝わるよい機会となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月締めの請求書の中に通信欄があり、健康の変化や日々の暮らしぶり、受診結果、行事や家族会のお知らせ、小遣いの報告などを行っている。家族の訪問時には直接様子を伝え、居室の壁にはメッセージボードがあり、家族とスタッフの連絡に活用している。また、電話で体調の変化などの様子を連絡することもある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問時には、できる限り意見を言えるよう雰囲気づくりに努めている。会費の使い道などは家族の意見が反映され、また、外部評価の家族アンケートの際は職員に言えない部分を記入するように説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が利用者との馴染みの関係を築けるように職員の配置を工夫するとともに、利用者の情報を共有できるように記録と伝達を行っている。また、月締めの請求書の通信欄で家族に職員の異動を伝えることもある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修を主体になるべく外部研修に出られるように努めている。また、必要に応じて内部研修も行っている。待遇面でも、研修手当をつけるなどして参加しやすくしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国および県の連絡協議会に加入している。また、遠方のグループホームの管理者を招き交流したことがある。		お互いの向上のために近隣の同業者との交流が望まれる。また、周辺においては、一歩先に始めた事業所として情報を提供できる機会を積極的に作ることで、地域と共に成長することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な場合は併設のデイサービスを体験利用したり、宿泊体験も行っている。場合によっては体験を繰り返し、職員やホームの雰囲気に少しずつ馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を十分に把握するようにしている。利用者が何を考え何を言いたいのか何をしたいのかなど、本人の心理を知ろうと努める中で、職員は教えられることもあり、心暖かい接し方で関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前のアセスメントでは平均3時間ほどかけて本人の思いや意向の把握に努めている。入居前には自宅訪問やホームで3回程面談を重ねている。また、生活の中から新たに本人の思いや意向を知った時は、職員で共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面談時に要望や意向を聞きケアプランに活かしている。定例会議では、職員の報告、記録、エピソードなどをもとに職員で話し合いケアプランを作成している。また、ケアプラン見直し時期に家族会の開催を合わせ、ケアプランの説明や承諾を得るようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険更新時や6ヶ月毎、状態の変化があった場合にケアプランの見直しをしている。見直し時には家族の意向を聴いたり、スタッフ会議では活発な意見が出され、ケアマネージャーのプラン作成の助けになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	医療連携の充実、訪問看護に よる健康チェックや、状況に 応じた柔軟な外出支援を行っ ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	3ヶ月に1回の定期受診ととも に、定期的に各人は往診を受 けている。体調不良時は連絡 をすると臨時での往診もあり 、皮膚科・歯科の往診もある 。また、24時間体制のとれる 訪問看護を月4回受けて健康 管理をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返 し話し合い、全員で方針を共 有している	これまでに3名の看取りをホ ームで経験しており、家族会 総会で報告したり「体験を聴 く会」を開き、訪問看護師 、管理者、看取った家族に体 験を話してもらっている。ター ミナルについては、家族、訪 問看護、かかりつけ医と話し 合いの機会をもち、意向の確 認を重ねている。また、ケア の内容については、できるだけ 細かく職員が共有できるように 努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	基本的に言葉かけは敬語にし ている。表現のツールとして 言葉を大切に、どう敬意を表 現できるか考えながら接す るようにしている。トイレや 入浴時の声かけは、本人の プライバシーを損ねる扱いと ならないように配慮している 。また、個人の記録の保管庫 には鍵をかけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希 望にそって支援している	利用者のペースを尊重し、そ の日の健康状態や気分などに 配慮し、本人の意見や希望を 聞きながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時の楽しい雰囲気とはどんなことが常に考え配慮し、適当なカロリーや栄養バランスを考慮したメニュー作りをしている。また、可能な利用者には食事作り、配膳、食器洗いができるよう支援しており、役割があり生き生きとした様子が伺える。野菜は自分たちの菜園で獲れた物やご近所で頂いた物を使っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴、時間帯は夕方からと決めてはいるが、体調や本人の意思を重視し、柔軟な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	民謡、唄、踊り、お手玉、塗り絵などのボランティアを取り入れながら、楽しく趣味活動を継続できるように支援している。また、日常的に役立っているという喜びを感じられるよう役割をもてるように働きかけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地の隣に公園があり、行ける人は、ほぼ毎日散歩をしている。希望に合わせて買い物に付き添ったり、花見、行事等できるだけ戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各室のベランダは網戸で全開しないが、外部の緑が豊かな設計上、出入り口がどこからも見えて、職員の対応が即行えるので日中は鍵をかけないケアができる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと、近所の人も参加して3月に防災訓練を行った。日頃より、避難場所の把握、水害マップ、避難方法、緊急時連絡方法など職員の把握を確認している。緊急連絡網もあり、災害時、地域のお互いの協力体制を築くために日頃から地域との交流に努めている。また、食料を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿、ウエイトコントロール、嚥下障害、咀嚼状況、野菜嫌い等に対応し、食事量、カロリー、形状、調理方法の工夫をしている。食事や水分の摂取量の把握と記録をし、水分摂取が困難な場合は好みの飲み物を準備している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造で天井が高くて明るく、風通しも良く広々としている。窓からの眺めから季節を感じることができ、また、内部の随所飾られた生花、掲示されている季節の作り物など、季節感にあふれている。壁には数々の絵が飾られ高級感もある。食堂はテーブルの他、掘り炬燵やソファのスペースもあり、自分なりの気に入った定位置もできている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きなように馴染みの物、大切な物、家族の写真、趣味の物等を自由に置き、居心地に配慮されている。		